

データブック 日本の鉄道

開業と廃止・150年のあゆみ

河合 篤 Kawai Atsushi



一般社団法人交通環境整備ネットワーク

内容見本

はじめに………

凡 例 ……

第1編 国有鉄道・JRの路線

1. 新幹線
2. 北海道各線
3. 東北線・奥羽線・羽越線
4. 信越線・中央線・総武線
5. 北陸線・高山線
6. 東海道線・関西線・紀勢線
7. 山陽線・山陰線
8. 四国各線
9. 九州各線

第2編 公営・民営鉄道の路線

1. 北海道の公営・民営鉄道
2. 東北の公営・民営鉄道(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)
3. 関東の大手民営鉄道
4. 東京都営・横浜市営の鉄道
5. 関東の公営・民営鉄道(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川)
6. 新潟・北陸の公営・民営鉄道(新潟・富山・石川・福井)
7. 甲信・岐阜の公営・民営鉄道(山梨・長野・岐阜)
8. 東海の公営・民営鉄道(静岡・愛知・三重)
9. 名古屋鉄道・名古屋市の鉄道
10. 近畿の大手民営鉄道
11. 京都市営・大阪市営・神戸市の鉄道
12. 近畿の公営・民営鉄道(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)
13. 中国の公営・民営鉄道(鳥取・島根・岡山・広島・山口)
14. 四国の公営・民営鉄道(徳島・香川・愛媛・高知)
15. 九州・沖縄の公営・民営鉄道(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)

第3編 資料

1. 鉄道関係法制度の変遷
2. 鉄道に関する国の行政組織・事業組織の変遷
3. 鉄道路線延長の推移
4. 社会の動きと鉄道
5. 参考文献

最新刊 データブック日本の鉄道

日本の全鉄道、全路線の開業から廃止に至るすべてのデータを網羅。

現在の鉄道線も、既に廃止された鉄道線もこの一冊で、一目瞭然。日本の鉄道のあゆみをたどります。

- ・発売日：2026年3月14日
 - ・A4版 300ページ
 - ・定価：4180円(本体3,800円+税)
 - ・発行所：一般社団法人交通環境整備ネットワーク
- お買い求めは、東京神田「書泉グランデ」5Fで。
または、発行所のホームページ (<https://ecotran.or.jp>) から。

著者紹介 河合 篤(かわい・あつし)

1954年東京生まれ。
1979年東京工業大学大学院理工学研究科(土木)修了。
1979年運輸省入省、以後、沖繩開発庁、運輸省鉄道監督局、国際協力事業団、運輸省大臣官房国有鉄道改革推進部、同省第三港湾建設局、埼玉県総合政策部交通政策課長、国土交通省鉄道局技術企画課長、同省近畿運輸局次長等を経て公益財団法人鉄道総合技術研究所理事、西日本旅客鉄道株式会社常務理事安全研究所所長等を歴任。
2022年より一般社団法人交通環境整備ネットワーク審議役。
鉄道の歴史研究をライフワークとして今に至る。

2 北海道各線

事業者名	線名	年月日	区間	距離	摘要	2	
北海道各線							
青函航路							
(S63.9.19廃止)							
開拓使		M5.9.9 M6.1.25	青森・函館 青森・函館		開拓使郵便船運送用航路として開設 一般客運航路開始(月6日開船2の目6日、青森発4の目9の目)	北海道各線	
郵便汽船三益会社 日本郵船会社		M12.6. M18.10.1	青森・函館 青森・函館		郵便汽船三益会社に移管(浪速丸250GT) 日本郵船(共同運輸会社と三益会社の合併により設立)が 毎日運航開始		
		M26.10.1	青森・函館・室蘭		室蘭出張所を置いて「三港航路」開設(北海道鉄道百年史では M26.2.運航開始とされているが、室蘭港で乗務を掛け負った葉 原宗念、及びに実業日報では10.1運航開始としている)		
通信省(鉄道作業局)	青函航路	M33.10.1 M41.3.7	青森・室蘭 青森・函館		青函航路国有化		
日本国有鉄道		S29.9.26	青森・函館		台風15号により「函館丸」が遭難、1,155名死亡		
北海道旅客鉄道	青函航路	S62.4.1 S63.9.19	青森・函館 青森・函館		北海道旅客鉄道に承継 廃止(在籍船隻S63.9.14廃止)		
海峡線							
中小国・木古内							
北海道旅客鉄道	海峡線	S63.3.13	中小国・新中小国(信)・木古内	87.8km	東気鉄道(AC50Hz2000V)1067mm間軌(青函トンネルが53,850m)完成/中小国・新中小国(信)2.3kmは津軽線と共用		
日本貨物鉄道		S63.3.13	中小国・木古内	(87.8km)	貨物開業(第二種事業者)		
		H23.3.11	中小国・木古内		東日本大震災により不通		
		H23.3.15	中小国・木古内		運転再開(4.7の余震により再度不通、4.9運転再開)		
		H28.3.26	中小国・木古内		青圧(AC50Hz2500V)、3軌軌条化により北海道新幹線と施設を共用/中小国・新中小国(信)にAC50Hz2500V/2000Vセクション設置(作業線定期旅客列車の運行は3.21まで)		
函館線							
函館・旭川							
大沼・森							
開拓使	函内(ほろない)鉄	M13.10.24 M13.11.11 M13.11.11 M13.11.18 M13.11.28	手宮・熊鷹・熊鷹第四線道・手前 手宮・熊鷹 熊鷹・熊鷹 熊鷹・熊鷹 手宮・熊鷹	(4.8km) (17.6km) (7.6km) 36.9km	試験航路 開業(1067mm)既開業 既開業 開業/開港町駅はM14.5大火により焼失、住吉町に移設(M14.5.22住吉と改称)		
工部省(鉄道寮)	管内鉄道	M15.2.8 M15.6.25 M15.11.13 M16.2.2	札幌・江別 札幌・(岩見沢)・管内 札幌・(岩見沢)・管内	21.0km 34.3km	工部省へ移管 開業/岩見沢はM17.8.15開業 農商務省に移管、局内に炭礦鉄道事務所設置/旅客開業 炭礦鉄道事務所を北海道(伊)に移管、M20.4から鉄道事務所が所管		
農商務省(北海道事業管理局)		M19.1.26	管内		管内鉄道の運輸、都府県鉄道の建設を村田雄(北友社)が 15年契約で請負(管有民営)		
北海道炭礦鉄道 村田雄(北友社)		M21.4.1	管内		開業/岩見沢はM22.5.28既開業、管内太はS19.4.1三笠と それぞれ改称		
北海道炭礦鉄道会社	管内線 空知線	M22.12.11 M24.7.5 M25.2.1 M25.2.1 M26.2.1	管内太・(三笠)・都春別(→ 既開業) 手宮・管内太・既開業 管内太・(岩見沢)・管内太 手宮・空知太 手宮・住吉(→小樽→中央小樽→南小樽)・管内太・管内	(91.2km+7.2km) 35.5km+14.2km 4.6km 4.6km -0.8km+0.2km	管内鉄道北海道炭礦鉄道に譲渡 開業(手宮・管内太は後の職志内線) 開業 開業 手宮駅起点変更、このころ管内駅終点も変更(両区間とも 変更はM26.3.21官報掲載)/住吉はM33.6.11小樽、 M36.12.15中央小樽、19.7.15南小樽と改称 貨物開業(国有化時に手宮駅に統合)		
北海道(鉄道部)	上川線	M26.3.26 M31.3.21	手宮・枝條	0.7km -0.9km	管内駅移設 開業/手宮・空知太は北海道鉄道部が備上、空知太廃止		
北海道炭礦鉄道 通信省(鉄道作業局)	上川線	M31.7.16 M36.2.3	空知太・旭川 手宮・小樽(→南小樽)	58.3km -0.1km	開業/手宮・空知太は北海道鉄道部が備上、空知太廃止		
通信省(鉄道作業局)	手宮線、(元北 運)	M38.4.1 M39.10.1	(空知太)・旭川 手宮・小樽、(空知太)	(58.3km) (115.6km)	合併 国有化		
北海道鉄道		M35.12.10	函館(→魚田)・本郷(→渡島 大野→新函館北斗)	16.9km	既開業		
		M35.12.10	岩別・蘭島	13.7km	開業		
		M36.6.28	本郷・森	31.4km	開業		
		M36.6.28	山道・熱帯	6.6km	開業		
		M36.6.28	蘭島・小樽中央(→高島→中 央小樽→小樽)	14.6km	開業/ 開業/		
		M36.11.3	森・長万部・熱帯(→歌楽→熱 帯)	62.9km+28.2km	開業/ 開業/		
		M37.7.1	函館・魚田	1.3km	開業		
		M37.7.18	小沢・山道	14.0km	開業		
		M37.10.15	歌楽(→熱帯)・小沢	64.5km	開業		
		M38.8.1	山道・熱帯	1.6km	開業		
		M40.7.1	函館・小樽	(255.9km)	国有化		
通信省(帝國鉄道庁)	(元北陸線)	M42.10.12	函館・旭川		国有化		
	函館本線	M44.8.29	函館・旭川		函館本線と線名制定 函館駅移設		



詳しくはこちら